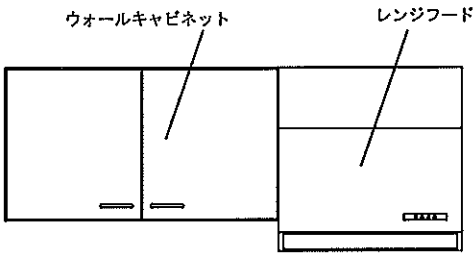
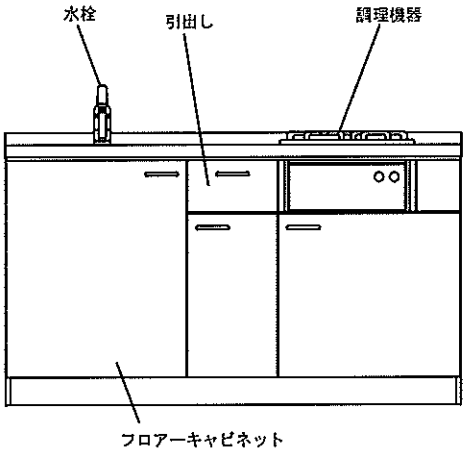
コンパクトキッチン
設置工事説明書





取扱説明書別添付

- 調理機器・レンジフード等の機器は、おのおのの設置工事説明書の内容を守り、正しく設置してください。
- キッチン及び、組込機器等の取扱説明書等は、とりまとめて保管し、お引渡しの際、不足のないことを確認のうえ、お客様にお渡しください。

安全に関するご注意

- ここに示した注意事項は、商品を正しく安全に設置・工事していただき、施工工事作業者及び製品を使用されるお客様や他の人々への危険や、財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
- 誤った工事により生じる危害、損害の程度により次の二つに区分しています。

⚠ 警　告	作業を誤った場合に施工作業者又は、設置後の製品の不具合によって、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注　意	作業を誤った場合に施工作業者又は、設置後の製品の不具合によって、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

施工終了後、点検表に従って試運転及び各部の点検を行い、異常のないことを確かめてください。

絵表示の意味について

禁止の行為であることを告げるものです。

行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警　告

- 電気工事、ガス工事、水道工事は関連する法令、規則に従って、必ず『有資格者』が行ってください。

  接続や、固定が不十分な場合は、発煙や火災、ガス漏れ、水漏れの原因になります。

- ウォールキャビネットの設置は、建築の壁の構造を確認のうえ、この説明書通りに確実に行ってください。

  設置に不備があると、ウォールキャビネットが落下して、怪我をするおそれがあります。

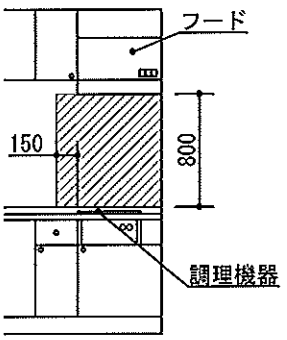
- ステンレス製ワークトップ・シンクは、必ず手袋をして取り扱う。

  手袋をしないで切断面に触れると、怪我をするおそれがあります。

⚠ 注　意

- フードの横には不燃ウォールキャビネットを設置してください。
  不燃ウォールキャビネットであっても、斜線部にかかってはいけない。

  火災のおそれがあります。
  火災予防条例でも規制されています。



- キッチンに組込まれる調理器具、レンジフード、電気製品、その他機器については、おのおのの設置工事説明書や、製品本体の表示事項を守り、正しく設置してください。

  設置を誤ると、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

⚠ 注　意

●工事に使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類については、それぞれの注意表示にしたがい、正しく使ってください。

誤った使い方をすると、人体に影響がでたり、使用部材の損傷や劣化の原因になります。

● 排水トラップ、排水ホースの取付けは、説明書にしたがい確実に行ってください。

取付けが不十分な場合、水が漏れ、床やキッチンが腐るおそれがあります。

● ワークトップと、壁の合わせ部はシール材で必ずシールしてください。

シールが不完全な場合は、水がこぼれてキッチンや壁、床を傷めるおそれがあります。

●工事終了後、扉の傾き・がたつきやヒンジのゆるみがないことを必ず確認してください。

扉の取付けに異常があると、使用中に扉が落下して、怪我をするおそれがあります。

● 水栓の接続は、確実に行ってください。

接続が、不完全な場合は、水漏れによりキッチンや床をいためるおそれがあります。

● 引き出しや棚板は確実に取付けてください。

取付けが不完全な場合、外れて怪我をするおそれがあります。

● 排水ホースは、排水管の底に当てたり、たるませて取付けないでください。

排水能力が低下し、シンクから水があふれて周囲を汚損するおそれがあります。

1　設置前の確認

1）設置前の確認

・必要部材が揃っていますか？

・設置場所の直角・水平レベルを確認してください。

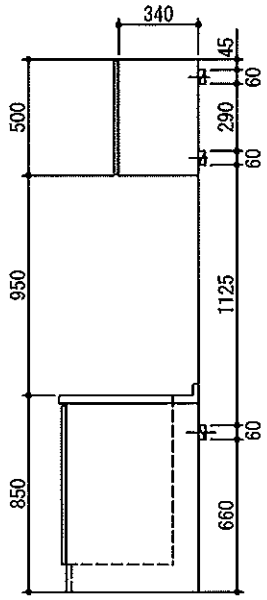
⚠ 警　告

● 壁面の固定桟が強固に固定されていることを確認してください。
固定桟は腐りのないものを使用してください。

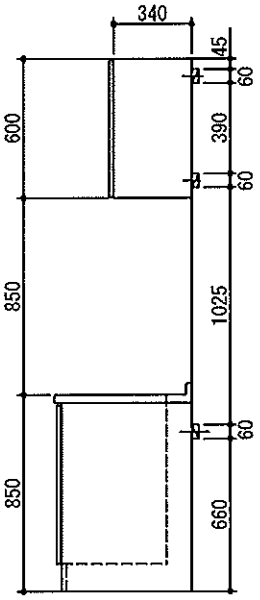
固定桟の取り付けが不完全な場合、ウォールキャビネットやレンジフードが落下して怪我をするおそれがあります。

2）壁面固定桟の位置の確認

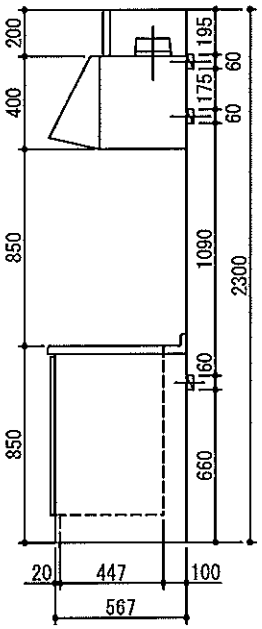
ウォール高さ５００の場合



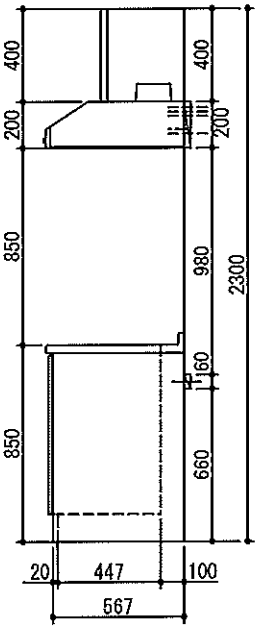
ウォール高さ６００の場合



渡辺製深型フードの場合



渡辺製浅型フードの場合

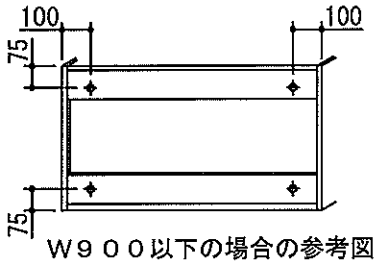


上記寸法はＨ＝２３００の場合の寸法割りです。
ウォールキャビネットの取り付け高さが異なる場合はその寸法になるように変更してください。

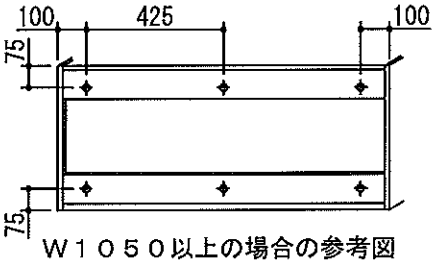
2　ウォールキャビネットの設置

1）設置前の準備

・後板に固定用穴（φ４）を開ける。
建築の下地材の位置を確認して、下地材のある位置に下穴の位置を決めてください。



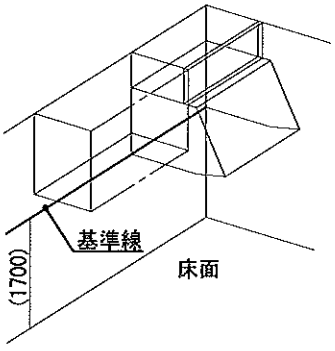
Ｗ９００以下の場合の参考図



Ｗ１０５０以上の場合の参考図

2）レンジフード・ウォールキャビの取付

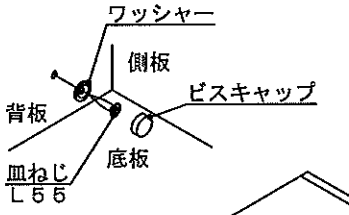
・壁面に基準線を水平に引く。
壁面に右下の図を参考に基準線を水平に引く。
基準線の位置は床面の一番高い面より出してください。



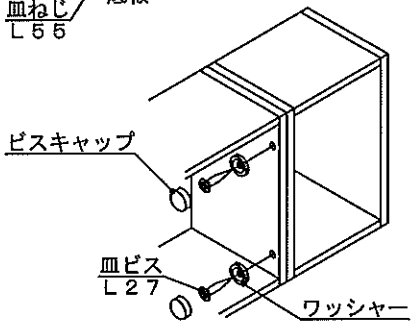
・レンジフード側に横壁がある場合は、レンジフードの設置工事説明書に従い横壁と隙間がないように固定してください。
ウォールキャビ側に横壁がある場合、レンジフードはウォールキャビを取り付け後に隙間がないように取り付ける。

・ウォールキャビをレンジフードと隙間がないように皿ねじＬ５５にワッシャーを通し取り付け、ビスキャップをはめる。

注意　不燃面がレンジフードに接するように取り付ける。



・キャビネットが２個に分かれている場合は、隣のキャビネットの前面・底面を合わせて皿ねじＬ２７で固定し、ビスキャップをはめる。



⚠ 警　告

● 固定ねじの固定桟への入り込みが１５㎜以上であることを必ず確認する。

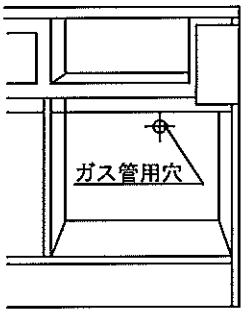
壁面への固定が不完全な場合、使用中に吊戸棚が落下して怪我をするおそれがあります。

・条件を満たさない場合は、ねじを現場で調達してください。

3　フロアーキャビネットの設置

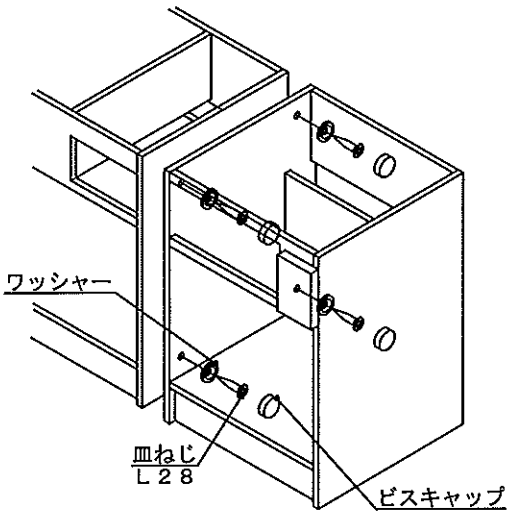
1）ガスドロップイン部のガス管用穴明け

・ガス配管位置に現物合わせでφ２５～３０の穴をあけてください。



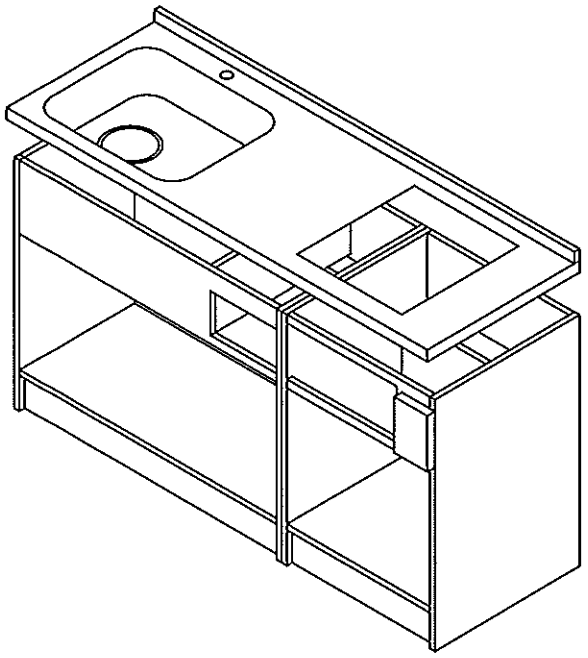
2）キャビネットの連結（W＝１６５０以上）

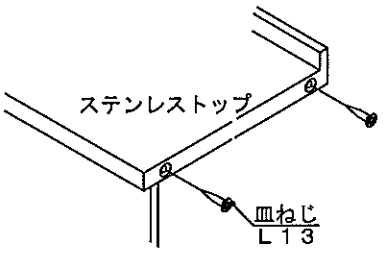
・二つのキャビネットの前面と上面を合わせて、皿ねじＬ２８にワッシャーを通しキャビネットを連結固定し、ビスキャップをはめる。



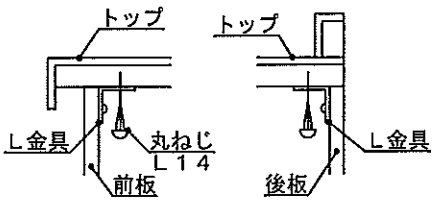
3）ワークトップの固定（W＝１６５０以上）

・フロアーキャビネットに載せる。
ステンレストップの場合は両サイドより皿ねじＬ１３　４本で固定する。
人大トップの場合はキャビネットのＬ金具で丸ねじＬ１４で固定する。





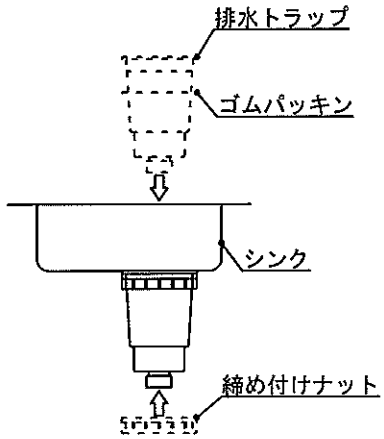
ステンレストップ



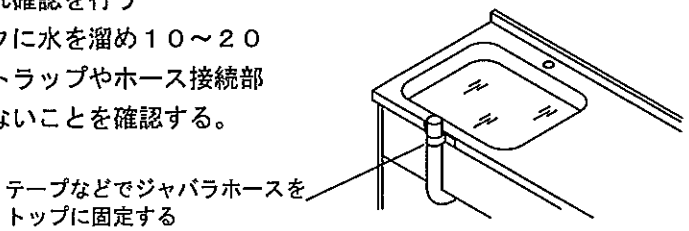
人造大理石トップ

4）排水トラップの取り付け（W＝１６５０以上）

・シンクの排水穴に上から差し込む。
・締め付けナットを下から差し込み、締め付け工具等で締め付けナットを水漏れがないように強固に締め付ける。
＊シンク・パッキン・トラップの接触部のゴミは取ってからセットしてください。
＊パッキンの変形がないことを確認する



＊取り付け後、水漏れ確認を行う
工事完了後、シンクに水を溜め１０～２０分間放置し、排水トラップやホース接続部などから水漏れがないことを確認する。

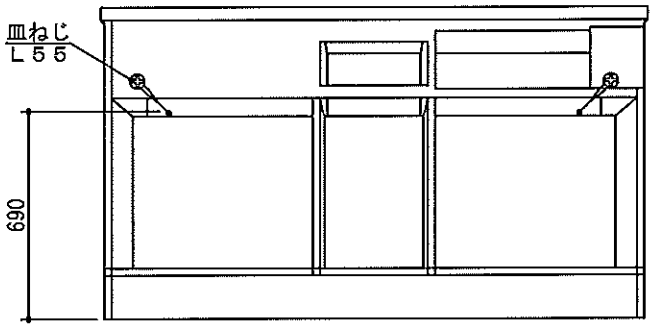


5）水栓の固定

・水栓はワークトップに前後を確認して、がたがないように固定する。

6）フロアーキャビの固定

・製品の前倒れ防止のため、後板に穴をあけて壁面に固定する。



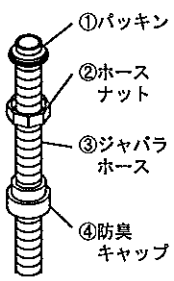
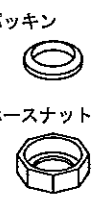
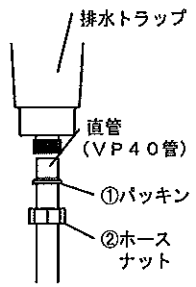
7）排水ホースの取り付け

・ジャバラホースの場合

ホース接続部に確実に差し込む。

・直管配管の場合

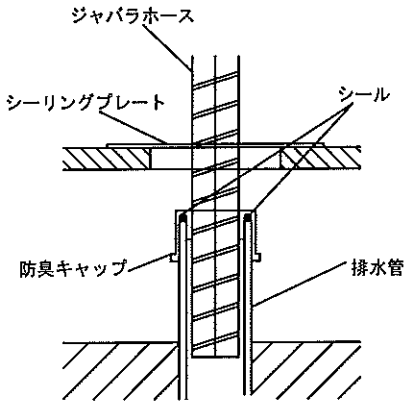
排水ホースからパッキンとホースナットを外す。
排水トラップに無理な力が加わらないように配管する。
直管接続後、シーリングプレートの穴周囲のミシン目より切り、穴を大きくする。

付属してあるホースユニットの部品	直管配管に使用する部品	直管配管図
	 ・ジャバラホース③防臭キャップ④は、不要です。	 ・直管（ＶＰ４０管）は、現地で調達して下さい。

8）排水管の接続

・ジャバラホースの場合

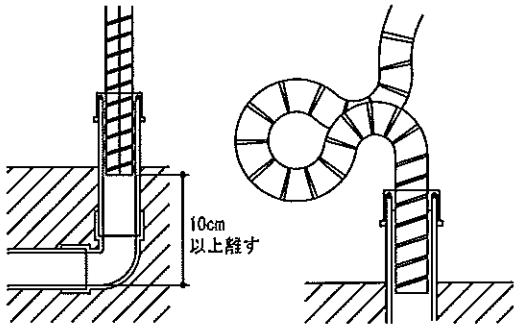
ジャバラホースがたるまない位置まで防臭キャップを動かす。
防臭キャップの最奥の溝に接着剤又はシール剤を塗布し、
排水管に取り付ける。
シーリングプレートの両面テープの紙をはがしホースに
はめて、底板に貼る。



⚠ 注　意

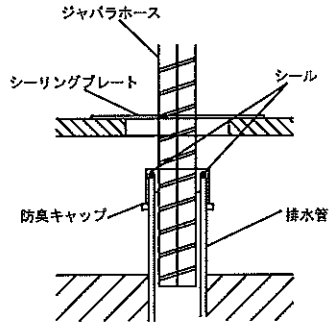
● ジャバラホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けない

排水能力が低下して、シンクから水があふれ、周囲を汚損するおそれがあります。ホースを適切な長さに切断してください。



● 防臭キャップと排水管の接続部は接着剤またはシール剤で必ずシールする。

シールが不完全な場合、湯気が上がり、キャビネットや床などが腐るおそれがあります。



9）熱源の取り付け

・熱源の取り付けは各機器の工事説明書にしたがって工事してください。

⚠ 警　告

● ガス工事は関連する法令・規程にしたがって必ず「有資格者」が行う

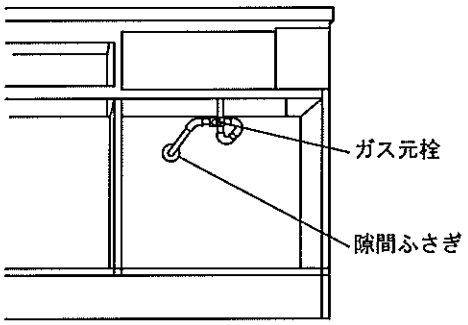
接続や固定が不完全な場合はガスもれの原因になることがあります。

● 電気工事は関連する法令・規程にしたがって必ず「有資格者」が行う

接続や固定が不完全な場合は火災や事故の原因になることがあります。

１０）ガス管の接続

・ガス配管は図のようにガス元栓を前面側の操作の容易な所に取り付ける。
ガス管引き込み後、ガス管と穴の隙間をふさいでください。

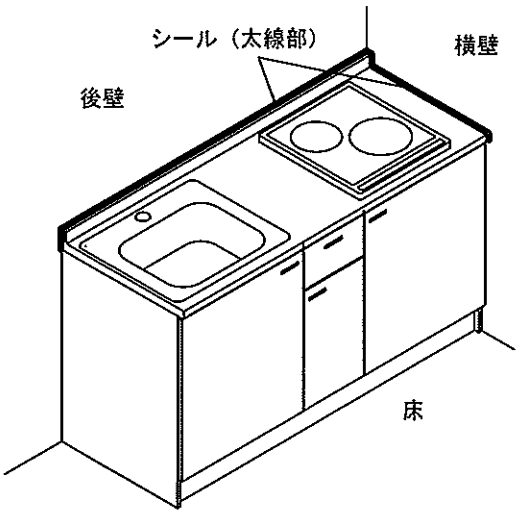


１１）ワークトップのシール

・ワークトップに後壁・横壁があるときは必ずシール剤でシールする。
シール剤は現地で調達してください。

⚠ 注　意

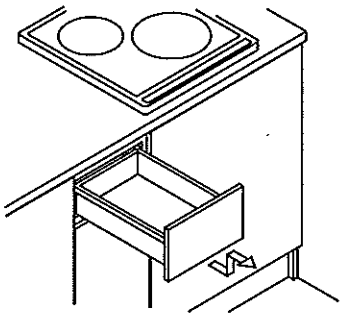
● ワークトップと、壁の合わせ部はシール剤で必ずシールする。
シールが不完全な場合、水がこぼれて壁や床、商品をいためるおそれがあります。



5　調整

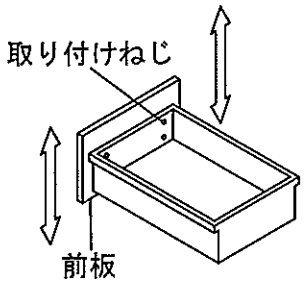
1）引き出しの取り外し

引き出しを引き出して、止まったら
前部を持ち上げて外す。



2）引き出し（前板）の調整

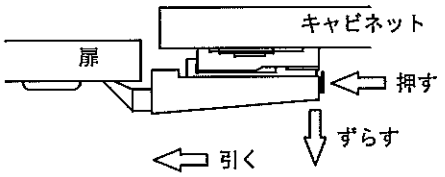
・取り付けねじ（４本）をゆるめ、
上下調整後、ねじを再度締め付ける。



3）扉の脱着

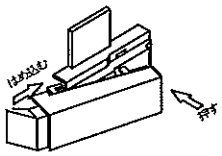
・扉の取り外し

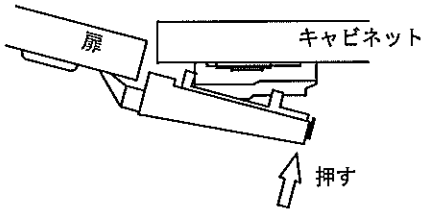
ヒンジの奥のストッパーを押しながら後側を横にずらし、前に引く。



・扉の取り付け

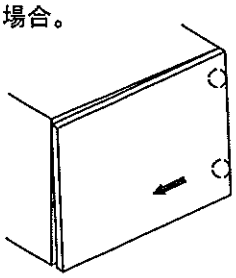
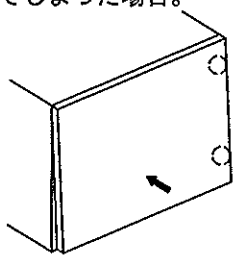
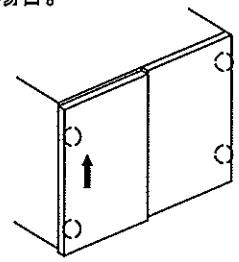
ヒンジベースにヒンジ本体のつめをはめ込み、後側を押し込む。

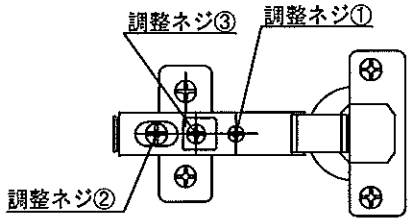




4）扉の調整

スキマが不均一な場合下図のように丁番を調節して下さい。

扉の傾き調整	扉のうき（隙間調整）	扉の段差調整
例えば ① 図の様に扉が左下に傾いてしまった場合。  下側丁番の調整ネジ①を回して扉が矢印の方向に寄る様に調整してください。 調整後、必ず調整ネジ②を締付けて丁番を固定してください。	例えば ② 図の様に扉と本体の隙間が上下で異なってしまった場合。  下側丁番の調整ネジ②をゆるめ下の丁番を奥にスライドさせて隙間を合わせてください。 調整後、必ず調整ネジ②を締付けて丁番を固定してください。	例えば ③ 図の様に左の扉が下がってしまった場合。  上下の丁番調整ネジ③をゆるめ丁番を上にスライドさせて段差を合わせてください。 調整後、必ず調整ネジ③を締付けて丁番を固定してください。



⚠ 注 意

● 工事終了後は、扉の傾き・がたつきやヒンジのゆるみがないことを必ず確認する

扉の取り付けに異常があると、使用中に扉が落下して、怪我をするおそれがあります。

5 ワークトップの養生

ワークトップは傷やダコン・割れ等がつきやすいデリケートな物です。
傷・ダコンなどを防止するために、キッチンの梱包材でワークトップを養生してください。

施工用工具　設置工事に際して、下記の工具をご用意ください。

電動ドライバー・モンキースパナー・脚立・メジャー・カッターナイフ・ドリル・プラスドライバー・マイナスドライバー・水平器

施工完了後

本表は、施工後に行う点検表です。本表にしたがってチェックしてください。

フロアー：　　部屋No.：

	チェック
1．商品に傷や割れはないか？	
2．扉間に段差や隙間の不揃いはないか？	
3．配管部に水漏れはないか？	
4．器具の取付けは行ったか？	
5．吊戸棚の固定は良いか？	
6．コーキングが必要な箇所にシリコンでシーリングを行ったか？	